

天小だより

命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校



令和 5年 1月18日
伊丹市立天神川小学校
校長 津田 康子

阪神淡路大震災から28年

17日(火)には、地震時避難訓練を行いました。2時間目の授業の終わりに放送で「地震」を知らせ、机の下に潜りました。「揺れが収まりました。」の放送後担任の指示のもと運動場へ避難しました。多くの児童は教室で学習中でした。運動場で体育をしているクラスもありました。普段は使わない非常階段から運動場へ出たクラスもありましたが、とても落ち着いて整然と集合できました。もし災害があっても、これくらい素早く、落ち着いて行動できると命を守ることにつながると思います。次は、子どもたちに話した内容です。

～地震時避難訓練での話～

今日の避難訓練は上手にできましたか？

避難訓練がある度に校長先生は同じ事を言っていますが、訓練をすることはとても大切です。なぜなら、本当に災害が起こった時に人はパニックになってしまい、どうしたらよいのかわからなくなることがあるからです。

ですから、訓練をする中で、地震の時は机の下に入って頭を守ったり、火災の時はハンカチで鼻や口を覆いながら逃げる出口を確認したり、みんなで避難場所に集まったりして実際に行動することで、自分の体で覚えて下さい。

それでも、災害では、訓練でやったことのない事が起きることもあります。その時は、一番に自分の命を守る行動をとらなければなりません。落ち着いて、どうしたら命を守ることができるか判断しましょう。

そのためには、少し怖いかも知れませんが、地震の時にはどのようなようになるのか、火事の時にはどのようなようになるのかを知っておく必要があります。地震については、阪神淡路大震災を経験した方のお話を聞いて下さい。家族に経験者がいなければ、テレビのニュースや新聞、インターネットの情報で正しく知っておきましょう。

今から28年前、校長先生も、宝塚の家で地震に遭いました。マンションに住んでいましたが、寝ている時に大きく揺れはじめ、まるで洗濯機の中で回されているように感じました。避難するために外に出ようとしたのですが、玄関の扉が斜めにいがんでなかなか外へ出ることができませんでした。扉を足で蹴って外へ出ました。

その時は稲野小学校の先生をしていましたが、学校へ行くと、教室にあったテレビがどの教室も全部床に落ちていました。しばらくして学校が再開しましたが、クラスの子どもの元気な顔を見て涙が出そうになりました。

伊丹市では小学生が一人亡くなりました。家の中で倒れてきたタンスの角で頭を打ったのです。「頭を守りましょう」というのは、頭が一番大切だからです。

みなさん、災害はいつ起きるかわかりません。災害について正しく知って、いざという時に自分の命を守って下さい。

今日帰ったら、阪神淡路大震災の事を聞いたり、調べたりすると併せて、地震などの災害が起きたらどうするのか、いざという時のことをお家の方と一緒に話し合っておいてください。